

平成30年度 知的財産国際権利化戦略推進事業
(ベンチャーの知財コミュニティ構築に関する調査)

ベンチャーの知財コミュニティ構築に関する 調査研究報告書

平成31年3月

株式会社角川アスキー総合研究所

リサイクル適性(B)

この印刷物は、板紙へ
リサイクルできます。

本調査研究の背景

革新的な技術やアイデアによって急成長を目指すスタートアップの増加やオープンイノベーションの機運、さらにはエコシステム成熟によって海外市場への視点が高まっている。だが、創業期前から知財戦略を経営戦略に組み込んでいる企業はわずかであり、根本的にスタートアップから知財が遠く、また適切なサポートができる弁理士自体も少なく、出会いの場もない。成長への起爆剤として、本来整備がされているべき知財がおろそかになっている。

本調査研究の目的

本調査研究では、スタートアップと知財関係者のネットワーク構築ならびにビジネスと知財の両面に精通した人材育成のためのコミュニティの在り方について調査することを目的とする。具体的には、各調査結果を特許庁の施策・体制を検討するための基礎資料として、スタートアップの知財意識を啓発し、自社ビジネスに適した知財専門家とネットワーク構築が可能な場の形成を目指す。

本調査研究の実施方法

以下、6点の取り組みからスタートアップにおける知財コミュニティの在り方を探った。ウェブ・リアル双方での調査活動を踏まえると、知財専門家とスタートアップが当たり前隣り合うためには、以下まとめのような条件が必要と考えられる。



■スタートアップと知財の識者による委員会を計3回開催



■特有課題を識者と検討する勉強会を4種計11回開催



■スタートアップコミュニティに関するヒアリング・調査実施



■特許庁主催による知財啓発イベントを計4回開催



■全国のコミュニティとコラボしたセミナーを計10回開催



■実施内容を総括して、広く関係者に共有する場を実施

まとめ

- (1) スタートアップ側の「知財マインド」の醸成
- (2) 各ビジネス領域でのケーススタディ等を通じて関係者が学習できる環境
- (3) 出会いの契機を創出するウェブとリアルの両輪で回るコミュニティの実現
- (4) 知財プロフェッショナルの新たな働き方の魅力発信と後進の育成

目次

要約	
I. 序	……1
1. 本調査研究の背景と目的	……1
2. 本調査研究の実施方法	……2
(1) 委員会による検討	……2
(2) ワーキンググループの設置	……2
(3) 公開情報調査	……2
(4) 国内外コミュニティとのネットワーク構築のための調査	……3
(5) 情報発信	……3
(6) 調査研究フォーラムの実施	……3
II. 国内外のスタートアップコミュニティの現状と知財の関連性	……4
1. スタートアップコミュニティについての公開情報調査	……4
(1) 調査設計	……4
(2) スタートアップコミュニティでの活性度合いの現状	……5
(3) スタートアップコミュニティでの知財情報の現状	……7
(4) スタートアップコミュニティとの弁理士の関係	……9
(5) 海外スタートアップコミュニティでのトピックス報告	……10
2. 知財戦略に関するスタートアップ特有の課題	……12
(1) ワーキンググループの設置設計	……12
(2) WG参加者からの意見・ニーズ分析	……13
3. スタートアップ関連団体とのネットワーク構築	……15
(1) 国内コミュニティとのコラボレーション実施報告	……15
(2) 海外コミュニティとのコラボレーション実施報告	……26
4. スタートアップ知財コミュニティ関係者への情報発信	……27
(1) 主催セミナーイベント開催報告	……27
(2) 専用ウェブサイト構築報告	……33
(3) 関連ウェブサイトにおける情報発信報告	……35
5. 知財コミュニティに関する調査研究フォーラムの開催報告	……37
(1) フォーラムの設計	……37
(2) フォーラムの成果報告	……40

目次

Ⅲ. スタートアップの知財コミュニティのあり方	……43
1. 各コミュニティ施策実施の検証	……43
(1) アンケートや直接のイベントでの反響	……44
2. スタートアップの周辺環境と本調査取り組みの整理	……46
3. まとめ	……49
平成30年度 知的財産国際権利化戦略推進事業（ベンチャーの知財コミュニティ構築に関する調査） 委員会名簿	……50
平成30年度 知的財産国際権利化戦略推進事業（ベンチャーの知財コミュニティ構築に関する調査） ワーキンググループ名簿	……51

1. 本調査研究の背景と目的

ベンチャー・スタートアップ企業※がユニコーンに成長するためには、積極的な海外市場獲得が重要だが、権利関連に関する認知や知識、コミュニティが属人的なものとなって、成長への障壁となっている。そのため、ビジネスにおける知財の重要性を認識し、スタートアップの経営と知財を理解した適切な弁理士などの知財専門家に会える環境整備、さらにサポートできる知財専門家の人材育成、地方も含めたネットワーク構築が必要となる。

本調査では、特許庁の施策・体制を検討するための基礎資料とし、かつ、スタートアップが海外での権利化戦略を構築できる環境を整備するために、知財関係者のネットワーク構築と、スタートアップにおけるビジネスと知財の両面に精通した人材育成のためのコミュニティの在り方について調べることを目的とした。

全国のスタートアップ企業、インキュベーター・アクセラレーター、さらにオープンイノベーション関連のプレーヤーによる既存のネットワーク・エコシステムの中で、リアルなイベントでのコミュニケーションを活性化。ウェブメディアを利用した広範囲な認知の獲得によって、多方面を巻き込んだ形でスタートアップと知財についてのコミュニティ醸成を狙った。

2. 本調査研究の実施方法

(1) 委員会による検討

スタートアップのコミュニティに精通した委員により、スタートアップの「知財コミュニティ」の在り方について議論。各ワーキンググループのテーマや成果報告会の構成についても合わせて検討を実施した。

(2) ワーキンググループの設置

先端的な技術分野やビジネスモデルにおける知財戦略について、スタートアップと技術の専門家、知財専門家などが共同で勉強会を開催。勉強会を通じて、各分野におけるネットワーク形成も期待した。

またワーキンググループの検討内容について各ワーキンググループにおける検討資料とするため、テーマ内容に応じた調査を実施した。

(3) 公開情報調査

書籍、論文、インターネット情報等を利用して、国内外の情報を収集。委員会におけるスタートアップの知財コミュニティの在り方の検討に資する情報として、各国・地域におけるコミュニティについて、構成するメンバーや取組内容等について調査・ヒアリングを行った。

(4) 国内外コミュニティとのネットワーク構築のための調査

国内にある既存のスタートアップコミュニティで、知財をテーマにしたセミナー・イベントを開催した。また、海外コミュニティについては、意見交換会を実施した。

(5) 情報発信

スタートアップ向けの知財情報をまとめたポータルサイト「IP BASE」を新たに立ち上げた。「知財のことならこのサイトを見ればいい」というサイトを目指して展開。また、外部の情報発信ではASCIIの公式ウェブサイト「ASCII.jp」内のメディア「ASCII STARTUP」を中心に、情報発信を強化した。

(6) 調査研究フォーラムの実施

3月22日に、これまでの取組を総括したイベント（成果報告会）を開催。「JAPAN INNOVATION DAY 2019 by ASCII STARTUP」内にて、同時開催として「IPナレッジカンファレンス for Startup」を実施した。

1. スタートアップコミュニティについての公開情報調査

(1) 調査設計

公開情報調査では、本調査のテーマである「スタートアップの知財コミュニティ構築の在り方」について検討するため、既存のコミュニティにおける知財との関わりについて調査・分析を行った。具体的には、国内外のスタートアップ関連コミュニティについてのリストアップ実施と、その中で特にコミュニティとしての活動が活発な組織にヒアリングを実施。その内容について整理を行った。

- 既存の国内コミュニティにおける知財の関わりについて調査した。
 - ・ 国内のスタートアップ関連コミュニティのリストアップ
 - ・ 知財セミナー・イベント開催状況などについてアンケート調査

- 既存の海外コミュニティにおける知財の関わりについて調査した。
 - ・ 海外のスタートアップ関連コミュニティのリストアップ
 - ※ 主に米国、欧州（北欧を含む）、中国、シンガポール
 - ・ 海外商工会議所、現地発VCなどに、知財関連の取り組みについてヒアリング調査

- その他、公開情報、及び過去の調査研究結果等も合わせて整理。

(2) スタートアップコミュニティでの活性度合いの現状

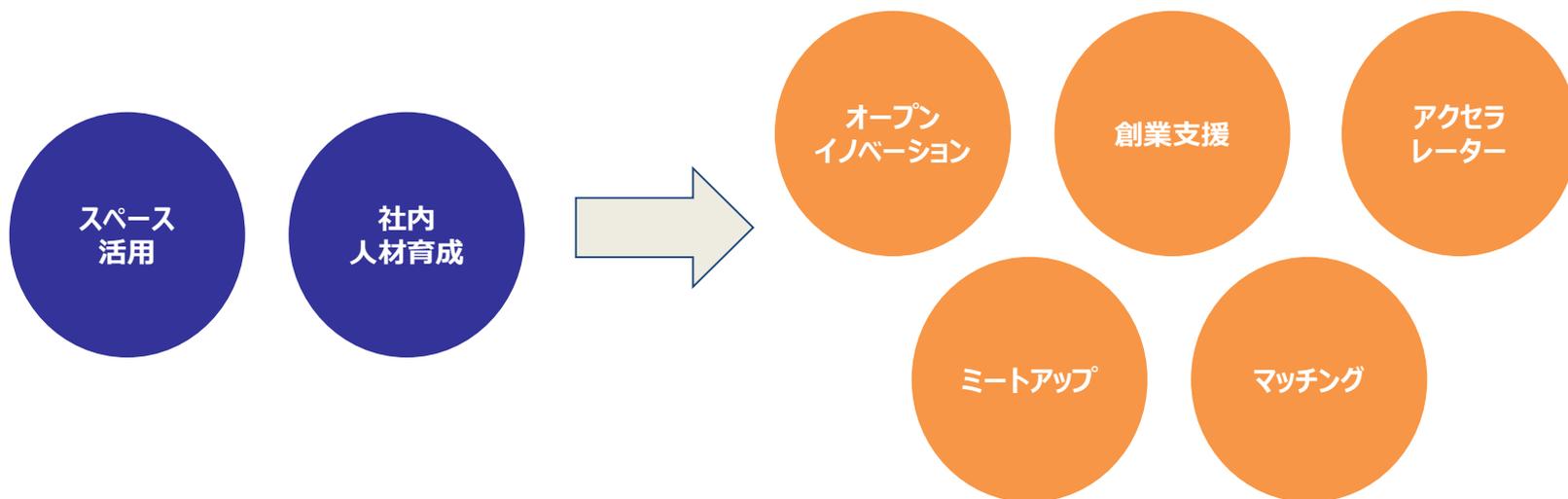
インキュベーター24組織、コワーキング16組織、その他、協会・学会、大学や政府関連など合計70超の組織を対象として調査した。

主要コミュニティでの取り組み内容の分類	
＜人材育成＞	拠点機能の提供
	各種相談：簡単な企業相談、スクリーニング、個別メンタリング
	ピッチ・ビジコン・アワード・アクセラレーションプログラム
	アドバイザー・専門家常駐・個別相談会
	起業／経営戦略／財務／資金調達／販路開拓／法務／知財／会計／海外展開／採用／広報／ネットワーキングなどの各種支援
＜交流＞	セミナー・イベント・マッチング・交流会・国際交流
	ハッカソン・アイデアソン・ワークショップ
＜サポート＞	オフィス、設備の提供
	資金調達サポート
	地方や大学との連携
	実証実験・テストマーケティングの場
	海外イベント、海外進出の展開支援

コミュニティ活性度についてのトピックとしては、以下の通り。

●コワーキングスペースのインキュベーション施設化

従来は場所の提供や社内人材育成を目的としたものだったコワーキングスペースだったが、近年の場の盛り上がりを受け、インキュベーターのような創業支援やアクセラレータプログラム、各種ミートアップやマッチングイベントが盛んになりつつある。



●東京都内での分散と、地方での集中化

地域については東京に集中している部分もあるが、渋谷から日本橋まで都心部を中心に場所によって特性が異なる。また、地方都市のコミュニティについては、仙台・神奈川・大阪・京都・福岡など一部地域に主要なものは限られている。

(3) スタートアップコミュニティでの知財情報の現状

スタートアップコミュニティにおける知財交流・人材育成のパターンは少ない状況にある。知財関連の施策について、公式ウェブサイト上に記載があるコミュニティは現状わずかしかない。最も多いのは「知財セミナー開催」であり、中小企業と近い組織やバイオ・製造業関連、また大手企業の一部に限られている。人材育成・交流という面でもまだまだ手段が少ない。

知財セミナー・イベントを開催しているコミュニティの例（アンケート結果より）

コミュニティ	知財イベントの頻度	参加人数	開催例
Startup Hub Tokyo	1、2回／年程度	50名程	<ul style="list-style-type: none"> 先輩起業家と語る「知財」リスクマネジメント スタートアップが知っておきたい知財の話～弁護士と一緒に考える知的財産権と事業戦略～
ProtoStar	2～4回／年程度	30～50名	<ul style="list-style-type: none"> Gear Change Day
Open Network Lab	不定期	10～15名	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産（特許・商標登録）の基礎知識
Fukuoka Growth Next	1、2回／年程度	20～40名	<ul style="list-style-type: none"> 投資を呼び込む!特許・著作権・営業秘密の魅せ方・活かし方 ビジネスモデルに活かすためのAIとの共創を目指す発明思考(アイデア発想支援)

● 知財専門家による相談会などを開催している例

Startup Hub Tokyo

専門家相談日で知財相談が可能（30分程度）。

本格的な支援が必要な場合は、東京都知的財産総合センターに橋渡しをする。

半分は商標に関する相談。

Fukuoka Growth Next

スタートアップカフェ内で、毎週1回、「士業による個別相談会」があり、弁理士も参加。

弁理士会と協力。

知財の重要性が高いと認識されているコミュニティでは、シードからアーリーステージのスタートアップを対象とした知財意識創発の機会が多く、定期開催となっている。期間としては、四半期から半年に1回ほどで、ビジネスモデルや知財をテーマにしたイベント・セミナーの実施はあるが、あくまでレクチャーが現状となっている。

(4) スタートアップコミュニティとの弁理士の関係

●コミュニティ内での知財専門家の有無がカギ

1. (3) で前述した主要な国内コミュニティでの知財情報ヒアリングの結果、セミナーなどのイベントと連動して、コミュニティに懇意にしている弁理士が属しているケースでは、知財に関する意識も高い結果がうかがえた。複数の顧問弁護士事務所や、スタートアップにかかわる知財専門家（弁理士）、LegalTech起業家、監査法人などのパイプがある場合、知財戦略は最低限の前提として理解されている状況がわかる。

コミュニティ内に一人でも、つながっている知財の専門家がいる場合、そこから知財がスタートアップにとっての有用な備えになると知れるため、知財への意識は高くなる。コミュニティにとっての知財専門家との出会いが継続的な知財についての意識向上へのカギとなっている。スタートアップ・知財専門家双方ともに、お互いにとってのニーズが見えることで、エコシステムの一環として動きが継続すると考えられる。

(5) 海外スタートアップコミュニティでのトピックス報告

日本からの海外進出サポートは数多くある状況だが、米国、欧州（北欧を含む）、中国、シンガポールにおいて、具体的な知財戦略、サポートの部分では、とくにスタートアップ側から使えるものが見えてない。またコミュニティも多数あるが、知財に特化したものは一部となっている。

例：日本発の海外進出について・JETROでの実施内容

海外進出においては、JETROから各種サポートが受けられる。ただしスタートアップには特定せず、日系企業の模倣品対策支援、海外権利取得支援の2点が中心。

海外での知財関連の取り組みが必要な場合、一般的に専門家の事務所リストを紹介可能。また個別ハンズオン支援では、営業秘密流出防止・専門家派遣（輸出関連）などがある。すでに進出している企業も含めての対応実施となっており、スタートアップへのフィットはこれから。

その他海外におけるコミュニティ内での知財関連トピック

● グローバル展開を狙う企業の場合、創業時から知的財産を組み込む^{1・2}

国別で見ると、イスラエルやインド、ロシアなどの企業が、北米ほかグローバル展開を狙う場合、創業時から知的財産を組み込む企業が少なくない。また海外でもスタートアップ特有のビジネスモデルを理解し、精通した知財専門家は限られている。グローバル展開を行う主要なVCやアクセラレーターは、必要に応じて弁護士や弁理士の協力を得られるよう連携している。インドでは政府機関によるアクションプラン、イスラエルでは主要大学で技術移転機関設置など、知的財産の重要性が認識されている。

● 米VCなどでは、法務・知財などの一環として処理

米国のアクセラレータプログラムやVC支援の場合、起業家の選出・メンタリング・資金調達援助の過程における一つの機能として知財関連もマークされており、適切なパートナーへの紹介がなされる形で対応が行われている。

¹ JETRO「2017年度日本発知的財産活用ビジネス化支援事業 エコシステム調査 ～インド編～」【最終アクセス日：2019年3月28日】
https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Reports/02/2018/2d0319537380ba7f/report-in.pdf

² 特許庁「スタートアップが直面する知的財産の課題および支援策の在り方に関する調査研究報告書」【最終アクセス日：2019年3月28日】
https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/document/zaisanken-seidomondai/2017_04_zentai.pdf

2. 知財戦略に関するスタートアップ特有の課題

(1) ワーキンググループの設置設計

<ワーキンググループ設置の目的>

- ・スタートアップと知財専門家の出会いの場を作って接点を増やすコミュニティ作成の一環
- ・スタートアップがこれからビジネスを始める上での新しい課題や検討項目を事前に洗い出す場として

<出席者>

知財の専門家1名（WG長）、スタートアップ複数社、ほか関連領域の専門家1名

<実施領域>

- ①画像データビジネス
- ②AR/VR/MR（XR）
- ③医薬バイオスタートアップの創業期戦略
- ④知財プロボノ/副業

硬い検討会ではなく、参加者のアイデアベースで自由なディスカッションを目指す場として実施。
12月から3月までに合計11回を実施した。

(2) WG参加者からの意見・ニーズ分析

● 新しい分野に挑戦するスタートアップ側としては、知財活用そのものに目が行ってないケースが大半という実情がある

・知財の適用範囲として、サービスとして作った時、どこが知財になり、どこがならないのか、わからない。

・特定の範囲で特許を出して、それがビジネス的にどのような意味があるのか、また基準がわからない。

・本来は、戦略として予め取り組むべきところではあるが、なかなかその余裕がない。

● 現業関連の別分野情報の事例や情報の希求度は高く、スタートアップにとっては事業でつまづく要素をはずしたいニーズがある

● 新しい分野ができた時のパテントプール形成の流れなどは、多くのスタートアップにとって参考となる

・知財で儲けるつもりはないが、自分たちが進めようとしているビジネスにとって足枷となるものがないか、確認し外していく作業が必要だと認識。

・政府関連でのワーキンググループ、法制研究タスクフォースの進展が参考になる

(2) WG参加者からの意見・ニーズ分析【知財プロボノ副業】

●スタートアップへの知財支援のニーズ

- ・スタートアップで知財にお金を払うのはコストパフォーマンスが悪い。
- ・「何のために特許を取るのか」の教育もしないといけない。
- ・特許の明細書の中身も目的で変わってくる。資金調達でお金がほしいのか、他社の競合がいるから嫌なのか、大手が入ってくるのを防ぎたいのか、いろいろなやり方を理解すべき。

●支援に向けた知財人材の育成が課題だが、ハードルは高い

- ・企業にいて幅広い経験をした人でないと、スタートアップ対応はできないが、大手でもなかなか居ない。著作権、商標など、幅ひろい守備範囲で何でも来いという人が望ましい。
- ・知財支援のありかたでも、がっつり入らないと本当の支援にならない。経営状況やマーケットや技術環境を見ながら、こういう部分にリソースを配分してやったほうが良いという助言は、その会社の中身を本当に知っている人がやらないといけない。

●既存の知財人材の流動・スタートアップへのかかわりは、現状を打破するためのきっかけの1つになる。まずはどこから手を付けるか決める必要がある。

- ・ボランティアなど、軽いタッチの支援なのであれば、その支援はどんなものがあるのかということを整理してもいい。ただし、無料支援でやる知財人材へのインセンティブが必要。お金なのか、成長なのか。

3. スタートアップ関連団体とのネットワーク構築

(1) 国内コミュニティとのコラボレーション実施報告

国内については、既存の日本各地のスタートアップコミュニティと連携。各地で知財についてのコミュニティ参加・意識向上を啓蒙した。11月～3月まで、合計10回を実施。

[国内コミュニティのイベント実績]

	日程	場所	イベント
1	平成30年11月29日	福岡	FUKUOKA STARTUP SELECTION 2018
2	平成30年12月14日	仙台	仙台アライアンスピッチ
3	平成30年12月18日	東京	sprout#2018年総集編@co-ba jinnan
4	平成30年12月26日	東京	スタートアップ紅白ピッチ@hoops link tokyo
5	平成31年1月21日	東京	会社を守るためのリーガルテック活用と知財戦略セミナー
6	平成31年2月8日	神奈川	RINK FESTIVAL 2019
7	平成31年2月8日	東京	J-TECH STARTUP SUMMIT
8	平成31年2月26日	神奈川	神奈川アクセラレーションプログラム
9	平成31年3月7日	仙台	TUSG Gathering「スタートアップと知財戦略」
10	平成31年3月8日	鹿児島	スタートアップ等のための知財戦略セミナー ～知財関係者を探す、活用するためには～（マークメイザン）

FUKUOKA STARTUP SELECTION **フクオカ・スタートアップ・セレクション2018**

福岡市が主催する、スタートアップ企業、地場企業、ベンチャーキャピタルが集まり、ビジネスマッチングを目的にしたカンファレンスイベント。高島現福岡市長が登壇する記者発表会「Fukuoka Growth Nextリニューアルオープン」や九州スタートアップのピッチなど、福岡のベンチャーコミュニティの核となるイベント。そのセミナーのひとつに、九州の大学発ベンチャーなどの知財戦略をもとに、スタートアップと知財をテーマにした成功談、失敗談のトークセッションを45分間実施した。

- 日時：2018年11月29日、30日
- 場所：Fukuoka Growth Next
- 人数：100名
- 内容 11月29日15時～15時45分
ビジネスセミナー
「スタートアップだからこそ、
知っておきたい知財戦略」
- 18時～ 懇親会
- 登壇者
岡田 久（株式会社kyulux）
入江 康雄（株式会社炭化）
貝沼 憲司（特許庁）
ガチ 鈴木（ASCII）



2018. 11. 29 THU. 30 FRI. 会場 Fukuoka Growth Next 1F

開催時間 | 13:30 - 18:00 (受付開始 13:00)

ネットワーキング | 29日 18:00 - 19:30 [会費] 2,000円/飲食付き 30日 18:00 - [会費] 実費 [場所] awabar fukuoka

仙台アライアンスピッチイベント

Global Lab SENDAI（グローバルラボ仙台）と台市経済局産業振興課が主催する仙台市スタートアップ向けのピッチイベントが、仙台市内のコワーキングスペースにて開催。身体機能研究所、シーデックス、Sirube、モービルジャパン、あx4の5社が、東北大学、仙台市、NTTドコモベンチャーズ、MAKOTOなど仙台で活動するスタートアップ支援者の前で自社サービスのプレゼンとメンタリングを実施。ピッチ終了後の特別セッションにて、角川アスキー総合研究所、アスキー編集部ASCII STARTUPのガチ鈴木が、スタートアップの知財戦略と特許庁の取り組みを紹介した。その後、懇親会に参加し、東北の支援者と交流を深めた。

- 日時：2018年12月14日13時～17時
- 場所：enspace（宮城県仙台市）
- 人数：50名
- 内容
スタートアップ企業のピッチ
支援者によるメンタリング
スタートアップ知財戦略とセッション
懇親会
- 登壇者
ガチ 鈴木（ASCII）ほか



仙台アライアンス
ピッチイベント
参加企業募集

開催日時 2018年12月14日(金)13:00~17:00
場所/enspace 住所:〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町1-4-9 芭蕉の辻AGOビル
URL: <https://www.enspace.work/>

応募締切 2018年11月30日(金)まで
※応募事業者多数の場合、書類選考あり



to Cベンチャープレゼンイベント sprout 2018年総集編

渋谷の各イベントスペースを舞台に定期的で開催しているBtoCのサービスを展開するスタートアップ企業による、プレゼンコミュニティイベント「sprout」の2018年総集編イベント。来場者の投票で優勝を決めるsproutにて2018年の開催会の最優秀スタートアップのみを集め、その中でさらに競われたプレゼンでは、サロン予約アプリ「requpo〜リクポ〜」を提供するリクポが最優秀賞に輝いた。

1枚のスライドを20秒で話すというスピーディなプレゼンスタイルで、ビジネスモデルとは関係なく、サービスの面白さのみを競うイベント。その例に倣い、特許庁・松本氏によるプレゼンもスライド10枚を各20秒で紹介していくスタイルでスタートアップ支援の取組を紹介した。

■日時：2018年12月18日18時～21時半

■場所：co-ba JINNAN（東京・渋谷）

■人数：100名

■内容

スタートアップ企業のピッチ

スタートアップ展示

懇親会

■登壇者

松本要（特許庁）

木崎智之（株式会社リクポ）

納富隼平（by pilot boat）ほか



2018年第2回紅白“ピッチ”合戦 ～平成最後の紅白ピッチ～

三井住友フィナンシャルグループが運営するオープンイノベーション拠点「hoops link tokyo」で、Fintech関連企業のカウンティアが主催した、年末のお祭りのなピッチイベント。男性が代表を務める企業の白組と女性代表の紅組と登壇企業のピッチを紅白対抗戦で行なわれた。AI作曲ソフト、ファイナンス管理、農業系スタートアップなどバラエティーに富む8企業が登壇し、それぞれ2018年の振り返りと、2019年の展望を語った。休憩中のパフォーマンスタイムに経済産業省特許庁の貝沼憲司氏から、特許庁のスタートアップ支援施策を紹介。

- 日時：2018年12月26日18時～21時半
- 場所：hoops link tokyo（東京・渋谷）
- 人数：50名
- 内容

スタートアップ企業のピッチ
スタートアップ展示
懇親会

■ 登壇者

楠大吾（Dmet Products）
秋元里奈（ビビッドガーデン）
流郷綾乃（ムスカ）
貝沼 憲司（特許庁）ほか

第2回 紅白“ピッチ”合戦

～平成最後の紅白ピッチ～

2018年12月26日(水)
18:30～21:30

@hoops link tokyo



会社を守るためのリーガルテック活用と知財戦略セミナー ～明日から使える法務テクニックから中長期的な知財戦略まで～

「hoops link tokyo」での、リーガルテックスタートアップであるGVA TECF社主催による「リーガルテック活用」と「知財戦略」の2本立てでのセミナー。法務部門を持たないスタートアップ経営者などを対象に、明日から使えるテクニックから中長期的な法務戦略の話までを教授。冒頭、経済産業省特許庁の網谷氏から、特許庁のスタートアップ支援施策を紹介。トークセッションでは、エアロネクストCIPO中畑氏を中心に、スタートアップが気を付けるべき知財戦略が語られた。

■ 日時：2019年1月21日18時～21時半

■ 場所：hoops link tokyo（東京・渋谷）

■ 人数：25名

■ 内容

特許庁登壇

主催者登壇

トークセッション

■ 登壇者

中畑 稔（エアロネクスト）

網谷 拓（特許庁）

山本 俊（GVA TECH）

北島 幹雄（ASCII）



RINK FESTIVAL 2019

かながわ再生・細胞医療産業化ネットワーク（RINK）初の大型イベント。「緩いつながり・新たな出会い」をテーマに、RINK会員をはじめ、日本各地・海外の事業者や研究者、学生等が、PR・交流する場を創出。日本が強みを有する再生医療の実用化・産業化を促進するため、横のつながり強化を目的にセミナーやピッチを開催。最終セミナーとして、貝沼氏から特許庁の取組を、そして大門先生から医薬・バイオスタートアップが知財で気を付けておくべきことをプレゼンした。

- 日時：2019年2月8日13:00~20:00
- 場所：ライフイノベーションセンター
- 人数：40名
- 内容 18時45分~19時30分
「セッションG. バイオ系スタートアップのための知財セミナー」
- 19時30分~ 懇親会
- 登壇者
貝沼 憲司（特許庁）
大門 良仁（弁理士）



第3回J-TECH STARTUP SUMMIT

TXアントレプレナーパートナーズが主催する技術系ベンチャーのための、プレゼンテーションまた認定ベンチャーの表彰式。革新性、影響力、実行力などの基準から日本を代表することを期待する技術に尖ったシード期、アーリー期のベンチャー企業を認定し、企業の紹介と認定証の授賞式を実施。高齢者のためのウェアラブルロボット「Assist Motion」や、地震から命を守る、高強度樹脂を開発製造する「Aster」、気体制御技術をライフサイエンスなどで実用化を目指す「Atomis」などが登壇。特許庁の菊地氏も技術系ベンチャーこそ知財戦略が重要とプレゼンした。

■日時：2019年2月8日

■場所：日本橋ホール

■人数：200名

■内容

J-TECH STARTUP 2018プレゼンテーション
技術系スタートアップのための知財戦略

■登壇者

Assist Motion、Aster、ASTINA、セルフアイバ
メディアラボRFP、Atomis、VRCほか
菊地陽一（特許庁）ほか

JTS J-TECH
STARTUP



かながわ・スタートアップ・ガイダンス

大企業にバイアウトした社長が語る、凡人でもイグジット出来る起業法

神奈川県が展開する県内のスタートアップコミュニティを生み出すための取組「かながわ・スタートアップ・ハブ」、県内企業を対象にアクセラレーションプログラム、スタートアップキャンプ、ガイダンスの講演会などを定期的で開催している。参画スタートアップ企業などがオープン参加できるトークイベント＆無料経営相談会「かながわ・スタートアップ・ガイダンス」の2018年第5回講演の特別セッションとして知財にて参加。

- 日時：2019年2月26日
- 場所：WeWorkオーシャンゲートみなとみらい
- 人数：52名
- 内容
スタートアップ向け知財戦略講演
イグジットをテーマにした起業法講演
交流会
- 登壇者
小原 聖誉 (StartPoint)
貝沼 憲司 (特許庁)

KANAGAWA STARTUP GUIDANCE

横浜

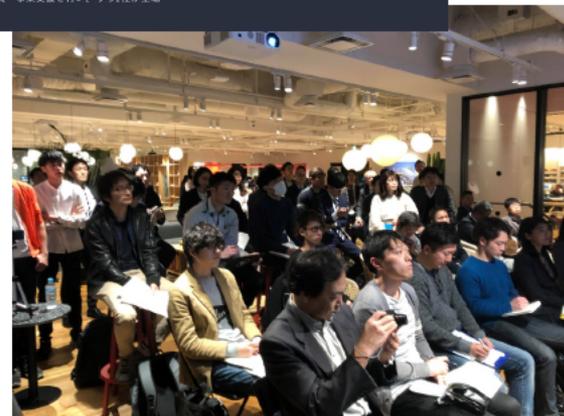
会場：WeWorkオーシャンゲートみなとみらい
<https://www.wework.com/ja-jp/buildings/ocean-gate-minatomirai-yokohama>

2/26 (火)
18:00 ~ 20:30

トークテーマ
大企業にバイアウトした社長が語る、凡人でもイグジット出来る起業法

株式会社StartPoint 代表取締役
小原 聖誉 氏
<https://startpoint.jp/>

プロフィール
エンジェル投資家、プレシード顧問ブラスター。2013年スマートフォン向けコンテンツビジネスを支援する株式会社AppRowdCastを創業。創業1ヶ月でKDDI株式会社と業務提携を協議。7ヶ月後に共同でアプリメディアを公開。400万人に達するユーザーを獲得し、KDDIグループの新規事業開発実現のために株式会社medibaへ株式譲渡。現在14社に役員・事業支援を行い、うち1社が上場



TUSG Gathering

「スタートアップと知財戦略」

東北、仙台でスタートアップ支援を行なう「MAKOTO」が運営する「東北大学スタートアップガレージ」(TUSG)とのコラボイベント。東北大学連携ビジネスインキュベータにて、「スタートアップと知財戦略」をテーマにしたイベントを開催した。東北大学や地元のスタートアップ企業が出演した知財セッションでは各社のビジネスに関連した知財の話題にたいして、特許庁の菊地氏がその場でメンタリングの壁打ちをするような流れでパネルセッションを実施、具体的な内容も多く、起業を目指す参加者たちも自分事のように感じていた。

- 日時：2019年3月7日
- 場所：T-Biz 東北大学連携ビジネスインキュベータ
- 人数：25名
- 内容
「スタートアップの知財戦略」講演
「起業家×知財戦略」パネルセッション
- 登壇者
小山田有裕（東北大学スタートアップガレージ）
菊地陽一（特許庁）
宮崎晃一郎（JDSound）
竹田宣生（ボールウェーブ）
田村壽英（ZAICO）
ガチ鈴木（ASCII）



スタートアップ等のための知財戦略セミナー ～知財関係者を探す、活用するためには～

鹿児島市が運営するクリエイティブ産業創出拠点施設「マークメイザン」にて、地元企業のための知財セミナーをコラボして実施。メイザン)で、前半は特許庁による知財戦略の講演と、後半は地元企業が登壇するパネルディスカッションを実施。後半のパネルは地方ならではの知財専門家に相談できるか、商標や特許についてなど幅広い悩みに、弁護士の田中氏と特許庁の貝沼氏が答える形で進行した。また来場者からの質疑応答も熱が入り、起業への関心の高さがうかがえた。

- 日時：2019年3月8日
- 場所：マークメイザン（鹿児島）
- 人数：30名
- 内容
「スタートアップの知財戦略」講演
地元企業によるパネルディスカッション
- 登壇者
田中雅敏（明倫国際法律事務所）
出口顕哉（シナプス）
吉田竜二（現場サポート）
貝沼憲司（特許庁）
ガチ鈴木（ASCII）



(2) 海外コミュニティとのコラボレーション実施報告

世界最大級のスタートアップアクセラレータ Plug and Playと意見交換会を実施

2019年2月18日（月）

スタートアップはファイナンス、マーケティング、海外戦略、プロダクトマーケットフィットなどを優先、知財は優先順位を落としがちという状況を改めて再認識。知財取り組みは、知人レベルでの弁護士事務所との連携や東京都を通じた知財の相談が主であり、「誰に相談していいのかわからない課題がある」、「特許の取得方法、難易度、スタートアップが知らない情報が多い」、「情報を知るための時間もかけられない」など、現場意見も聞くことができた。今後の知財イベント実施や、また特許庁からのイベント協力実施を検討。120社を超えるアクセラレーションプログラム採択企業への特許庁関連施策、イベントなどの案内について共有した。

【参加者】

矢澤麻里子氏（Plug and Play Chief Operating Officer）

藤本あゆみ氏（Plug and Play Marketing / Communications VP）

貝沼憲司氏（経済産業省 特許庁 総務部 企画調査課）

吉野涼氏（経済産業省 特許庁 総務部 企画調査課）

【Plug and Play Japan】

2006年米国シリコンバレーでスタートしたベンチャーキャピタル・アクセラレータ、「大企業」×「スタートアップ」のイノベーションプラットフォーム。2017年はプログラムを通じて460社以上のスタートアップ支援に加え、262社へ投資。現在、世界11カ国26拠点に拡大し、Plug and Play Japanはその日本支社として、2018年7月に設立。



4. スタートアップ知財コミュニティ関係者への情報発信

(1) 主催セミナーイベント開催報告

特許庁の支援施策の普及啓発を目的としたセミナー等を開催。10月のCEATEC内イベントを皮切りに、11月（東京）・12月（大阪）・1月（福岡）・2月（東京）の合計5回分を実施。ASCII STARTUPが持つルートを通じて、東京・大阪・福岡の各既存コミュニティと連携して、各都市でスタートアップと知財専門家をセミナーに招聘した。

[主催セミナーイベント実績]

セミナー名	参加者	実施概要	実施時期
CEATEC JAPAN 2018 知財でビジネスを加速するスタートアップ特集!!	200	スタートアップ3社・弁理士1名・省庁1名登壇	平成30年10月18日
「IPナレッジベース」コミュニティイベント in 東京	48	スタートアップ1社・弁理士1名・省庁1名登壇	平成30年11月26日
「IPナレッジベース」コミュニティイベント in 福岡	17	支援家2社・省庁1名登壇	平成30年12月7日
「IPナレッジベース」コミュニティイベント in 大阪	24	弁理士1名・スタートアップ3社・省庁1名登壇	平成31年1月21日
「IPナレッジベース」コミュニティイベント in 東京2	80	スタートアップ1社・大手1社・弁理士3名登壇	平成31年2月20日

CEATEC JAPAN 2018 **知財でビジネスを加速するスタートアップ特集!!**

CEATECで知財セッションを開催。200人超が参加し、立ち見も出るほど盛況。

■日時：2018年10月18日

■場所：幕張メッセ

■人数：200名

■内容

セッション①

「知財でビジネスを加速するスタートアップ特集!!」

<登壇者>

安達淳治（株式会社Kyulux）

大原壮太郎（ソナス株式会社）

島津敦好（株式会社カウリス）

松本要（特許庁）

セッション②

「知財戦略勉強会」

<登壇者>

白坂一（弁理士/特許業務法人白坂）

松本要（特許庁）



知財とスタートアップをマッチング

「IPナレッジベース」コミュニティイベント in 東京

スタートアップと知財関係者をマッチングするコミュニティイベントを東京都の企業支援施設「Startup Hub Tokyo」で実施。第1部は特許庁のベンチャー支援チームや、知財コミュニティの構築を進めていることを報告。第2部はスタートアップ企業のリクポ代表と、同社の担当弁理士が登壇し、ビジネスモデル特許取得からのサービス展開を紹介。知財戦略が投資家に対して好印象を与え、さらにプレスリリース、サービスの露出などPR面でも役立つなど、経営への影響など話題が出た。



■実施概要

■日時：2018年11月26日

■場所：Startup Hub Tokyo

■人数：48名

■内容

第1部 特許庁によるベンチャー×知財関連施策について&質疑応答

第2部 スタートアップの知財戦略パネルディスカッション

懇親会

■登壇者 ※敬称略

貝沼憲司（経済産業省特許庁）

安高史朗（IPTech特許業務法人）

木崎智之（株式会社リクポ）

ガチ鈴木（ASCII）



知財とスタートアップをマッチング

「IPナレッジベース」コミュニティイベント in 福岡

福岡市の起業家支援施設「Fukuoka Growth Next」にて、スタートアップと知財関係者のマッチングイベントを実施。第1部では特許庁が進める知財におけるスタートアップ支援のについて紹介、知財の機能について独占だけでなく、企業間の連携や他者への信用にもなると解説した。第2部では識者による対談、スタートアップの知財戦略について、ステージによる知財戦略、海外に向けた展開と、スタートアップをアジアのハブとしようとする福岡にマッチする内容となった。

■実施概要

■日時：2018年12月7日

■場所：Fukuoka Growth Next

■人数：17名

■内容

第1部 特許庁によるベンチャー×知財関連施策について&質疑応答

第2部 知財戦略パネルディスカッション

懇親会

■登壇者 ※敬称略

吉野涼（経済産業省特許庁）

合田ジョージ（ゼロワンブースター）

坂本剛（QB Capital）

ガチ鈴木（ASCII）



知財とスタートアップをマッチング

『IPナレッジベース』コミュニティイベント in 大阪』

関西の起業家、技術者の集まる拠点、大阪イノベーションハブにて、スタートアップと知財関係者のマッチングイベントを実施。第1部は特許庁の手掛けるスタートアップ支援施策を紹介。第2部は関西起業家3名と、弁護士の内田氏を招いたスタートアップの知財戦略をテーマにしたトークセッション。各登壇企業はビジネスを進めるうえで知財をどう生かしていくかについて、具体的な戦略と悩みが飛び交い、それに応える内田氏と貝沼氏による公開メンタリングのような内容となった。

■実施概要

■日時：2019年1月21日

■場所：大阪イノベーションハブ（OIH）

■人数：24名

■内容

第1部 特許庁によるベンチャー×知財関連施策について&質疑応答

第2部 知財戦略パネルディスカッション

懇親会

■登壇者 ※敬称略

貝沼憲司（経済産業省特許庁）

内田誠（iCraft法律事務所 弁護士）

石見一女（Be&Do）、大津 真人（Momo）

武野團（あっと）、ガチ鈴木（ASCII）



「IPナレッジベース」コミュニティイベント in 東京2」

スタートアップと知財関係者をマッチングするコミュニティイベントをKADOKAWAの市ヶ谷オフィスセミナールームで開催。第1部は特許庁の貝沼氏がスタートアップ向け知財施策を解説。第2部は「スタートアップのための知財専門家の上手な探し方、使い方」をテーマにOne Tap BUY林代表とメルペイの有定氏がそれぞれの立場でパネルディスカッションに参加。第3部は初の試みとして、「弁理士ピッチ」を開催し、来場者を前に3名の弁理士、弁護士がプレゼンした。

■実施概要

■日時：2019年2月20日

■場所：五番町グランドビル 7F セミナールーム

■人数：80名

■内容

第1部 特許庁によるベンチャー×知財関連施策について&質疑応答

第2部 パネルディスカッション「スタートアップのための知財専門家の上手な探し方、使い方」

第3部 弁理士ピッチ

懇親会

■登壇者 ※敬称略

貝沼憲司（経済産業省特許庁）

有定裕晶（メルペイ）

林和人（One Tap BUY）

ガチ鈴木（ASCII）



(2) 専用ウェブサイト構築報告

- スタートアップ×知財のポータルサイトを新たに立ち上げた

ドメイン『https://ipbase.go.jp/』
サイト名「IP BASE」

- ・サイト構成
 - ・サイト概要
 - ・ニュース
 - ・イベント（イベントカレンダー、レポート掲載）
 - ・特別企画
 - スタートアップCEOの取材記事連載
 - ・基礎知識
 - 各種支援施策情報

平成31年3月からは、会員の募集を開始。メールマガジン配信や第一線で活躍している専門家のコラムなどの会員限定で届ける予定となっている。



● 将来的にはウェブ上でのコミュニティ化を想定

下記4段階の実施レベルについて、スタートアップや知財専門家の声を元に運営実施していく。

1 情報発信

週1でのイベント情報配信のほか、会員サイトの更新内容をまとめて送付

2 知財相談受付

FAQのような形式で、想定される質問や疑問点を解消する仕組みを検討

3 弁理士の登録・情報閲覧

詳細な登録内容は要検討。初期段階では、イベントピッチに登壇するような弁理士情報掲載予定

4 寄稿やQ&Aコミュニティ作成

会員のニーズに沿って、実施内容を検討する

The screenshot shows the '開発環境' (Development Environment) header of the 'スタートアップの知財コミュニティポータルサイト IP KNOWLEDGE BASE for Startup'. It includes a search bar and navigation links for 'サイト概要', 'ニュース', 'イベント', '特別企画', '基礎知識', and 'お問い合わせ'.

The 'よくある質問と回答' (Frequently Asked Questions and Answers) section contains three Q&A pairs:

- Q:** 我が社のアイデア・ノウハウも知的財産として保護を受けることができるのか？
A: 単なるアイデアの域にとどまるものは別として、
 - 製造条件等のノウハウ
 - 試作品のデータ
 - 金型の図面・設計図などは、すべて重要な知的財産です。他社に漏れる前に、特許などによる権利化や営業秘密として秘匿化することで保護できるかもしれません。
発明を権利化しようとする際は、競合他社の技術者にも明細書が読まれることを意識して、秘密として守るべき重要なノウハウなどを公開してしまわないような書類を作成する必要があります。

- Q:** 不用意な技術流出を避けるための適切な特許出願書類作成とは？
A: 発明を権利化しようとする際は、競合他社の技術者にも明細書が読まれることを意識して、秘密として守るべき重要なノウハウなどを公開してしまわないような書類を作成する必要があります。
- Q:** 特許などによる権利化／営業秘密として秘匿化、どう使い分ければよい？
A: 対象となる技術の内容や競合他社との関係によっても取るべき戦略が変わってくるため一概に使い分けの基準を定めることはできませんが、一例として以下のような使い分けが考えられます。

権利化すべき	秘匿化すべき
<ul style="list-style-type: none">外から見ても、あるいは分解すれば分かる機能部品形状分析が容易な材料組成	<ul style="list-style-type: none">特殊な表面仕上げ方法熱処理プロセスなどの製造方法

Copyright © Japan Patent office. All Rights Reserved.

(3) 関連ウェブサイトにおける情報発信報告

●ASCII.jpと連携
『ASCII.jp』内ASCII STARTUPにて
特集連載を掲載。
記事自体は、連携メディアでの掲載ほか、
ソーシャル関連での発信を実施。

主な掲載内容

- ・イベントレポート
- ・地方コミュニティ記事
- ・CEOが語る知財
- ・特許庁の取り組みニュース

The screenshot displays the ASCII STARTUP website interface. At the top, there are navigation menus for various technology categories like AI, IoT, and TECH. A prominent banner for 'アスキーストア' (ASCII Store) features a '今週のオススメ' (This week's recommendation) for a '二重傘[Circus]' (Double Umbrella) for 3780 yen. Below the navigation, there are several article teasers and advertisements. One article titled 'STARTUP×知財戦略' (Startup x Intellectual Property Strategy) is highlighted, dated December 6, 2018. Other teasers include 'IoT&H/W BIZ DAY' and 'RETISSA Display'. The right side of the page contains more advertisements and event information, such as 'JAPAN INNOVATION DAY 2019' and 'IoT&H/W BIZ DAY 6'.

II. 国内外のスタートアップコミュニティの現状と知財の関連性

4. スタートアップ知財コミュニティ関係者への情報発信

●ASCII.jpでの掲出記事（抜粋）

特集記事

STARTUP×知財戦略

スタートアップ企業において、知財は非常に大きな役割を持つ。信用やマーケット、設備などを備える既存企業と戦ううえで、知的資産は武器になりうる。本特集では、スタートアップのビジネスを加速する知財戦略構築支援の最前線をレポートする。



文 ● ASCII STARTUP 2019年01月24日 11時00分更新

BI 0 シェア1 ツイート 一覧 お気に入り 本文印刷

2019年01月24日 11時00分

「第2回紅白“ピッチ”合戦」レポート

AI作曲、八工活用循環システムも登壇の第2回紅白“ピッチ”合戦

年末に、「2018年第2回紅白“ピッチ”合戦～平成最後の紅白ピッチ～」が開催された。AI作曲ソフト、ファイナンス管理、農業系スタートアップなどバラエティーに富む8企業が登壇し、それぞれ2018年の振り返りと...



2019年01月16日 07時00分

sprout winner of the year 2018年総集編

検索いらずの美容室予約アプリが優勝 toCだけのピッチイベント「Sprout」

東京・渋谷のco-ba JINNANで、スタートアップイベント「sprout 2018年総集編」が開催された。今回の総集編では、2018年に開催された5回のsproutの勝者がプレゼンを行ない、来場者からの投票の結果、サロン...



2019年01月11日 16時00分

仙台アライアンスピッチイベントレポート

仙台から新しいパワードスーツ、EVカー、EdTechが誕生

グローバルラボ仙台と仙台市経済局産業振興課が主催する仙台市スタートアップ向けのピッチイベント「仙台アライアンスピッチイベント」が仙台市内の coworkingスペース「enspace」にて開催された。



2018年12月19日 11時00分

「CEOが語る知財」：FINC Technologies 代表取締役CEO溝口勇児氏インタビュー

ヘルスケア領域で50超の特許を取得 FINCの知財戦略とは

収益化が難しいヘルスケア分野で、着実に歩を進めているFINC Technologies。成長の要となっているのが同社のもつ特許技術だ。スタートアップにおける知財の有効性について、代表取締役CEOの溝口勇児氏にお話を...



STARTUP×知財戦略 ー 第2回

「知財アクセラレーションプログラム」選出の3社が事例を語る 知財戦略で注目 スタートアップ支援プログラムで攻める特許庁

2018年10月26日 07時00分更新 文 ● 森崎良子 編集 ● 北島幹雄 / ASCII STARTUP

BI 1 シェア71 ツイート 一覧 G+ お気に入り 本文印刷



2018年10月、幕張メッセで開催されたCEATEC JAPAN 2018のイノベーショントークステージにおいて、「知財でビジネスを加速するスタートアップ特集!!」と題したカンファレンスが行なわれた。特許庁では近年、知財財産保護の視点からベンチャー支援を推し進めており、その一環として、夏からスタートアップベンチャー対象とした支援事業「知財アクセラレーションプログラム」(IPAS: IP Acceleration program for Startups)を開始している。同カンファレンスでは、特許庁の支援施策の紹介とともに、IPASの対象企業として選出された3社の事例が語られた。

スタートアップ企業の知財戦略の遅れを改善するための特許庁の取り組み



STARTUP×知財戦略 ー 第3回

「IPナレッジベース」コミュニティイベントin東京レポート

スタートアップが生き残るに必要な不可欠な知財戦略とは

2018年12月06日 06時00分更新 文 ● 松下典子 編集 ● 杉子鈴木 / ASCII STARTUP 撮影 ● 曾根田元

BI 0 シェア174 ツイート 一覧 G+ お気に入り 本文印刷

ASCII STARTUPは2018年11月26日、スタートアップと知財関係者を対象にしたセミナーイベント「IPナレッジベース」コミュニティイベントin東京を、丸の内StartUp Hub Tokyoにて開催した。当セミナーは、スタートアップが知財を活用するための情報提供と専門家とのネットワーク、コミュニティづくりを目的としたもの。登壇者に、経済産業省特許庁 企画調査課 課長補佐の良沼憲司氏、株式会社リクボ代表取締役 CEO 木崎智之氏、IPTech特許業務法人 代表弁理士・公認会計士の安高史朗氏の3名を迎え、スタートアップが知っておくべき知財戦略をテーマに、セッションとパネルディスカッションを行なった。

独自のサービス、製品の価値やブランドを守るために必要なのが、特許や商標といった知的財産権だ。こうした知的財産は、スタートアップにとって、自社技術を守るだけでなく、オープンイノベーションや資金調達に武器にもなり、とくに世界展開には欠かせないものだ。経済産業省特許庁では、スタートアップの知財意識を促進すべく、情報提供や専門家とのネットワーキングなどの活動を行なっている。

知財コンテンツ、早期審査、知財アクセラレーションプログラム、海外展開などの支援策

第1部のセッションは、経済産業省特許庁 企画調査課課長補佐 良沼憲司氏より、スタートアップの知財戦略の状況と特許庁のスタートアップ支援施策について紹介した。



経済産業省特許庁 企画調査課課長補佐 (ベンチャー支援班長) 良沼憲司氏

5. 知財コミュニティに関する調査研究フォーラムの開催報告

(1) フォーラムの設計

500名規模の先端技術に親和性のあるビジネス層での来場者への波及を狙って既存のイベントと合同で開催。レポーティングも含めて、スタートアップ業界関係者に向けた発信を実施した。

●知財コミュニティに関する調査研究フォーラム概要

名称 IPナレッジカンファレンス (IP KNOWLEDGE CONFERENCE) for Startup

日程 2019年3月22日 (金)

時間 16:00~18:00

事務局 (ASCII) によって実施されるイベント「JAPAN INNOVATION DAY 2019」と同時開催。シンポジウムと展示スペースにて成果報告セミナーやコミュニティとの交流を展開。

●参加者

100名想定で関係者招待に加えて無料での参加枠募集。スタートアップ枠、一般枠、知財関係者・弁理士枠で募集を募ったほか、会場に出展しているスタートアップ参加を促した。

●展示スペース

スタートアップの相談窓口として開放。当日スタートアップからの相談を受け付けた。

●事前周知

上記ASCII主催イベントに合わせて、メディア内の記事、チケットサイト、関連ウェブメディア、公式リリース配信、さらに各スタートアップコミュニティ関係社への周知を実施する。

【JAPAN INNOVATION DAY 2019 開催概要】

名称：JAPAN INNOVATION DAY 2019 by ASCII STARTUP

同時開催：IPナレッジカンファレンス for Startup（特許庁）

日程：2019年3月22日（金）10時～18時

会場：赤坂インターシティコンファレンス

総来場者：945名

※ほか出展・登壇関係者100名超が参加

出展団体：60超



●実施内容

【第1部】「スタートアップ×知財戦略 2018年度取り組み概況」

登壇者：菊地陽一氏（特許庁企画調査課 企画班長）

【第2部】「知財プロフェッショナルが語るスタートアップの課題と新たな働き方」

登壇者：

齊藤 友紀氏（株式会社メルカリ 社長室 兼 法務マネージャー）

中畑 稔氏（株式会社DRONE iPLAB代表取締役）

西山彰人氏（Social Harmony 弁理士）

元木 新氏（モバイル・インターネットキャピタル株式会社）

今村 亘氏（特許庁企画調査課 課長）

【第3部】「日本のイノベーションに必要な攻めの知財戦略を考える」

登壇者：

東 博暢氏（株式会社日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門プリンシパル）

合田ジョージ氏（株式会社ゼロワンブースター共同代表 取締役）

牧野成将氏（株式会社Darma Tech Labs 代表取締役）

水島 淳氏（西村あさひ法律事務所・パートナー 弁護士）

貝沼憲司氏（特許庁企画調査課 ベンチャー支援班長）

(2) フォーラムの成果報告

●「JAPAN INNOVATION DAY 2019」全体実績

大手企業・スタートアップなどを中心にイベント全体で総来場者は945名。セッション・展示のほか、パンフレットなどで本取り組みに関する啓発を実施した。

●知財フォーラム関連実績

カンファレンスセッション参加者：85名



●会場フォトレポート



● 各種情報発信レポート

■ JAPAN INNOVATION DAY 2019 — 第5回

日本のイノベーションに必要な「攻めの知財戦略」とは？ 【3/22セッション観覧募集中】

2019年02月19日 07時00分更新 文 ● ASCII STARTUP

[B! 0](#) [シェア 10](#) [ツイート](#) [一覧](#) [お気に入り](#) [本文印刷](#)

アスキーは2019年3月22日（金）、オールジャンルのXTech展示カンファレンスイベント“JAPAN INNOVATION DAY 2019 by ASCII STARTUP”を、赤坂インターシティコンファレンスにて開催。キャッシュレスやオープンイノベーション、知財戦略など幅広いジャンルを扱う各セッションの観覧者をたぐいまる募集しています。

16時から、スタートアップから大企業へのつながり、ユニコーンになるための特許戦略について議論する特別無料セッション「日本のイノベーションに必要な攻めの知財戦略を考える IPナレッジカンファレンス for Startup」を開催します。

本セッションは、無料での公開セッションとなりますが、入場にあたっては優先枠を設けています。参加ご希望の場合、スタートアップ・一般・知財関係者のそれぞれの枠でお申し込みください。

■ ■ JAPAN INNOVATION DAY 2019参加登録はコチラ！
(イベントレジストに遷移) ■ ■



セッション内容

ベンチャー・スタートアップ企業がユニコーンに成長するためには、積極的な海外市場獲得が重要ですが、権利関連に関する認知や知識、コミュニティが属人的なものとなって、成長への障壁となっています。同セッションでは、知財とスタートアップにかかわる各種プレーヤーが登場。講演とパネルディスカッションを通して、防衛的知財ではない、攻めの知財の考え方や知的財産事例を紹介しながら、スタートアップから大企業へのつながり、ユニコーンになるための特許戦略について議論します。

■ JAPAN INNOVATION DAY 2019 — 第25回

知財のプロが語るスタートアップの課題と新たな働き方 【3/22セッション観覧募集中】

2019年03月18日 08時00分更新 文 ● ASCII STARTUP

[B! 0](#) [シェア 165](#) [ツイート](#) [一覧](#) [お気に入り](#) [本文印刷](#)

アスキーは2019年3月22日（金）、オールジャンルのXTech展示カンファレンスイベント“JAPAN INNOVATION DAY 2019 by ASCII STARTUP”を、赤坂インターシティコンファレンスにて開催。キャッシュレスやオープンイノベーション、知財戦略など幅広いジャンルを扱う各セッションの観覧者をたぐいまる募集しています。

16時から、スタートアップから大企業へのつながり、ユニコーンになるための特許戦略について議論する3部構成の特別無料セッション「日本のイノベーションに必要な攻めの知財戦略を考える IPナレッジカンファレンス for Startup」を開催します。

本セッションは、無料での公開セッションとなりますが、入場にあたっては優先枠を設けています。参加ご希望の場合、スタートアップ・一般・知財関係者のそれぞれの枠でお申し込みください。

■ ■ JAPAN INNOVATION DAY 2019参加登録はコチラ！
(イベントレジストに遷移) ■ ■



セッション内容

ベンチャー・スタートアップ企業がユニコーンに成長するためには、積極的な海外市場獲得が重要ですが、権利関連に関する認知や知識、コミュニティが属人的なものとなって、成長への障壁となっています。同セッションでは、知財とスタートアップにかかわる各種プレーヤーが登場。講演とパネルディスカッションを通して、防衛的知財ではない、攻めの知財の考え方や知的財産事例を紹介しながら、スタートアップから大企業へのつながり、ユニコーンになるための特許戦略について議論します。

当セッションは16時から18時にかけて、「第1部：特許庁、スタートアップ支援施策ははじめました」「第2部：知財プロフェッショナルが語るスタートアップの課題と新たな働き方」「第3部：日本のイノベーションに必要な攻めの知財戦略を考える」の3部構成でお届けします。

今回、16時20分から展開する「第2部：知財プロフェッショナルが語るスタートアップの課題と新たな働き方」に登場する方々をご紹介します。

■ JAPAN INNOVATION DAY 2019 — 第42回

「IPナレッジカンファレンス for Startup」レポート 各界のプロがホンネで語る世界展開を成功させる知財戦略とは

2019年03月27日 07時00分更新 文 ● 松下典子 編集 ● ASCII STARTUP 撮影 ● 平塚克彦

[B! 0](#) [シェア 14](#) [ツイート](#) [一覧](#) [お気に入り](#) [本文印刷](#)

ASCII STARTUPは3月22日、オールジャンルのXTech展示カンファレンスイベント「JAPAN INNOVATION DAY 2019 by ASCII STARTUP」を東京・赤坂インターシティコンファレンスにて開催。60社以上の企業ブース展示のほか、キャッシュレスやオープンイノベーション、知財戦略など幅広いジャンルのセッションを実施した。

同時開催となったイベント「IPナレッジカンファレンス for Startup」では、特許庁やスタートアップ業界のプロフェッショナルが登場し、「第1部：特許庁、スタートアップ支援施策ははじめました」「第2部：知財プロフェッショナルが語るスタートアップの課題と新たな働き方」「第3部：日本のイノベーションに必要な攻めの知財戦略を考える」の3部構成で、スタートアップがユニコーンになるための知財戦略について議論した。ここでは、その内容の一部をレポートする。

【第1部】特許庁、スタートアップ支援施策ははじめました

第1部は、特許庁 企画調査課 企画班長 菊地陽一氏が登壇し、「特許庁、スタートアップ支援施策ははじめました」と題して、日本のスタートアップが抱える知財戦略の課題と、解決するための特許庁による支援施策を紹介した。



特許庁 企画調査課 企画班長 菊地陽一氏

スタートアップの強みは、斬新な技術と尖ったアイデアといった知的財産だ。スタートアップが成長するには、自社のアイデアや技術、ブランドがオリジナルであることを証明し、武器として活用するための戦略が欠かせない。

知財のもつ機能は、「独占」「連携」「信用」の3つ。独占は、事業の差別化、模倣の防止。連携は、オープンイノベーションのツールとして使える。信用は、資金調達やM&Aの評価、ブランドや技術力を持つことへの裏付けになる。

事業計画の中で、この3つの機能をうまく使うことが知財戦略だ。しかし、日本のスタートアップは、米国に比べて知財意識が低く、特許の取得数も少ない。

1. 各コミュニティ施策実施の検証

主催セミナー、地域コミュニティイベント参加、フォーラム実施、などを行ったが、アンケートや直接のイベントでは多数の反響があった。来場者からの主な声としては、「このような機会がまったくない、知財に関するイベントがない」「早期審査、割引制度は知られるべき」「コミュニティサイトがあって期待している、いい弁理士に出会う方法がわからなかった」「そもそも知財への認識がなかったが、先達の起業家の考えを知って変わった」といったものが特に多かった。地方での実施の場合は以上の声により顕著であり、ウェブを使ったコミュニティ組成における強いニーズが確認できた。

またスタートアップ側には、連続起業家など知財に高い理解を持っている層がある一方で、最初の起業であり、かつ、前職で知財に関する知識や経験がない場合、資金調達のシリーズにかかわらずまったく知財に触れないまま事業を進めているスタートアップが多く、知財におけるリテラシーの溝がある。知財イベントは既存の中小向けなどで開催されていたかもしれないが、それを利用しているのはごく一部であり、多くのスタートアップはそもそもの認知・理解不足によって、イベント自体に気づけていない。

(1) アンケートや直接のイベントでの反響

●主催イベントでの来場者分析

来場スタートアップのステージとしては、起業前からシリーズA前の段階が多かったが、シリーズB、レイトーに近い層も見受けられた。技術分野は、IT系が最も多く、ヘルスケア・ものづくり関連もあった。特許庁主催イベントの場合、数は少ないが、知財への意識が高いスタートアップの参加が傾向がある。

日程	場所	申込	来場者	一般・スタートアップ	知財関係者	アンケート回答
平成30年11月26日	東京	88	48	27	21	21
平成30年12月7日	福岡	20	17	4	13	6
平成31年1月21日	大阪	43	24	6	18	12
平成31年2月20日	東京2	102	80	36	44	31

●スタートアップ、知財専門家ともにイベント来場者の関心度は非常に高い

スタートアップ・弁理士ともにアンケートから見られる来場者の興味・関心が高いのは下記の4点。特許庁主催のイベントに来場する層としては、知財への意識は高く、あとは実際の現場での出会いやビジネスへの活用を考えているケースが多かった。

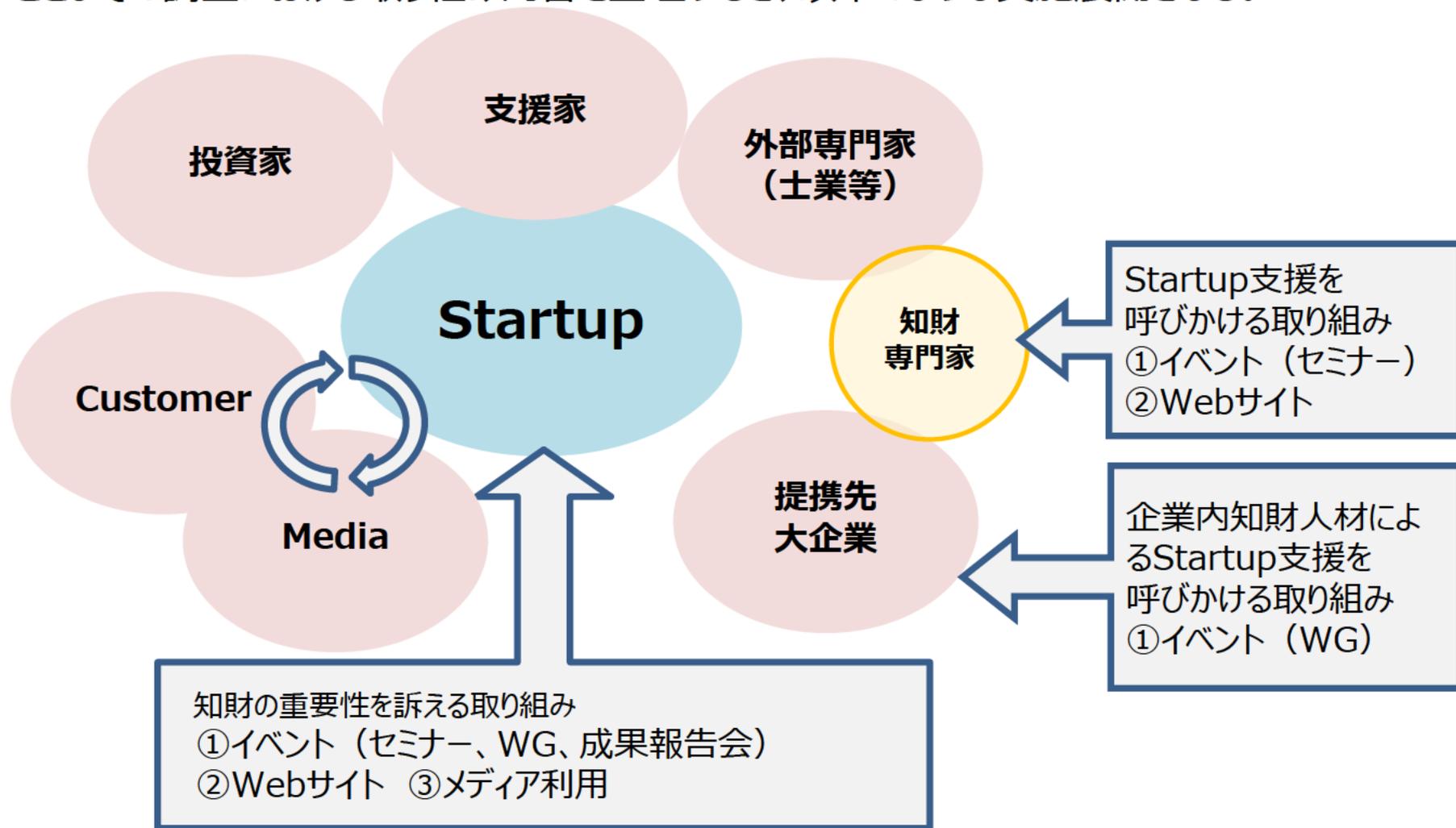
【関心の強い知財のジャンル】

- ①スタートアップ・弁理士とのマッチング
- ②事業差別化
- ③事業提携・オープンイノベーション
- ④他社による模倣の防止

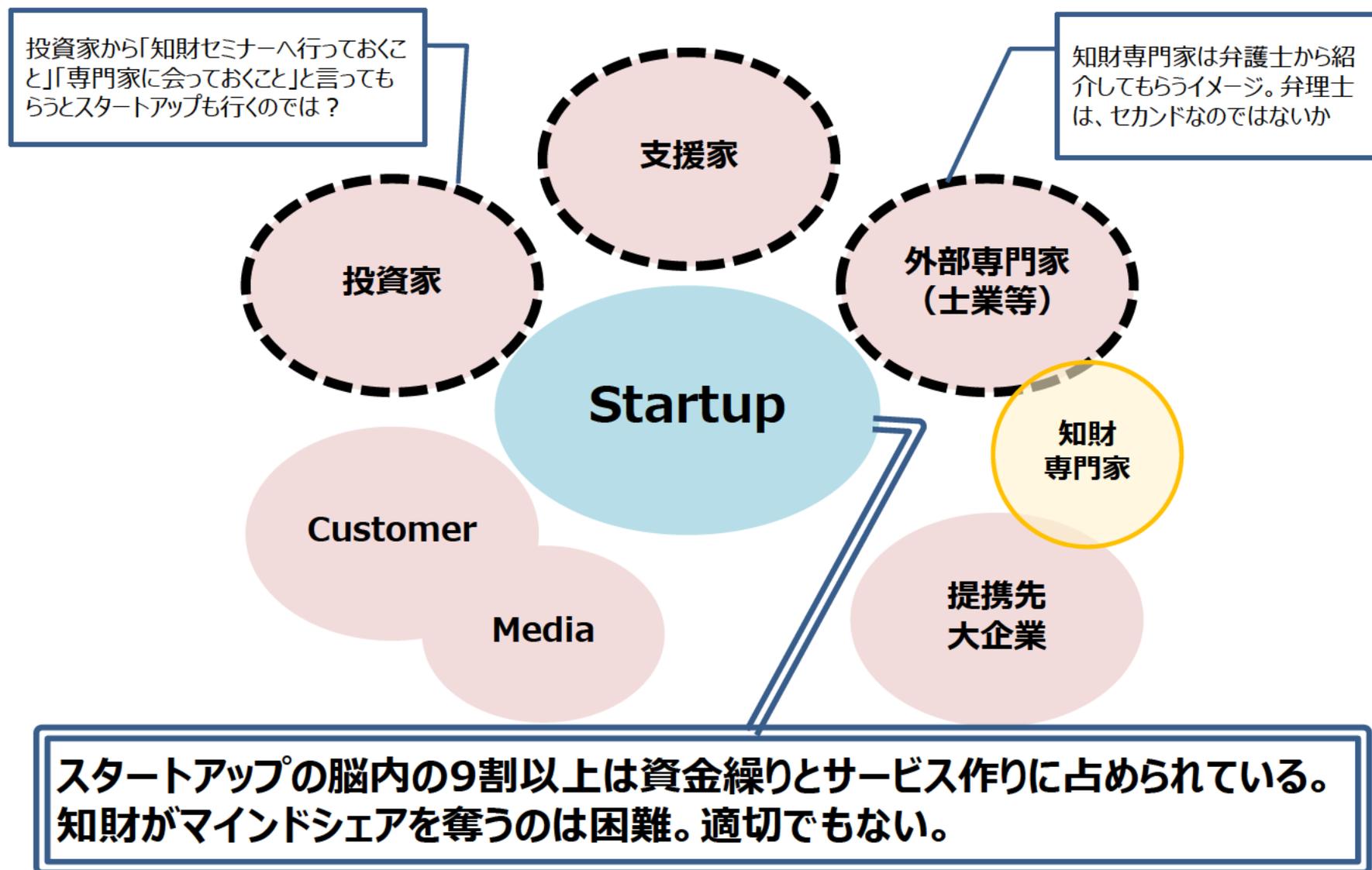
来場目的	
スタートアップ	知財に関連する情報収集 (起業前～シリーズA後の段階までさまざま)
知財専門家	スタートアップの情報収集 スタートアップとの交流・出会い・営業 (スタートアップ企業のピッチ、プレゼンを見たい声も多数)

2. スタートアップの周辺環境と本調査取り組みの整理

ここまでの調査における取り組み内容を整理すると、以下のような実施展開となる。



● 委員会の指摘①：ステークホルダーからのアプローチ



●委員会の指摘②：知財意識レベルに応じた段階的支援

国内の現状はこちらの段階が9割と見ていい。スタートアップ全体として知財意識が低い。意識醸成には、VCや投資家など創業期の主要ステークホルダーからの働きかけが有効ではないか。

スタートアップ向けの知財という論点も重要だが、**特定分野の専門性という観点の議論が不足しがち**。ドメインの技能的な軸と、一方でスタートアップが理解できるケーススタディがあって初めて役に立つ。

知財の重要性を理解し、継続的な活動を行いたい層

知財に取り組みたいが、費用対効果がわからない層

知財に関心はあるが、何をすべきかわからない層

知財に関心が無い層

1 対多のセミナーやWebの情報発信等で、知財意識を醸成する

少人数の勉強会形式でケーススタディと質疑、簡易な助言等を行う

特定の技術や分野（ドメイン）の専門知識と高度なヒアリング能力を持つ知財専門家が必要

今年度活動の発展的継続が求められる部分

新たに長期的取り組みが必要な部分

※今年度のWGで、弁護士・弁理士以外の方が悪意なく専権業務を侵さないように、「知財活動に関する副業のガイドラインが必要ではないか」との指摘がある。

3. まとめ

プレーヤーの多様化、市場のボーダーレス化、さまざまなステークホルダーからの支援体制の充実等、各種の要因によって日本のスタートアップ界は発展の機運を見せつつある。大手企業から見ても、買収や下請けといった従来の枠組みを超えて、オープンイノベーションや海外への積極的な展開をにらんだ、協力・共創へのモチベーションも含め、スタートアップの重要性が改めて高まっている。こうした機運を逃さないためにも、生まれつつある国内エコシステムの中で、スタートアップにありがちな知財周辺の無防備さをカバーする仕組みが必要である。

本年のウェブ・リアル双方での調査活動を踏まえて、知財専門家とスタートアップが当たり前隣り合うためには、以下のような条件が必要と考えられる。

(1) スタートアップ側の「知財マインド」の醸成

(知財の基本的な仕組みや成長への影響力などを理解すること)

(2) 各ビジネス領域における知財戦略について、ケーススタディ等を通じて関係者が学習できる環境

(3) 「知財マインド」を喚起し続け、個別の出会いの契機を創出するための、ウェブとリアルの両輪で回るコミュニティの実現

(4) スタートアップとともに伴走して活躍するという、知財プロフェッショナルの新たな働き方の魅力発信と後進の育成

ベンチャーの知財コミュニティ構築に関する調査研究委員会

委員会名簿

（敬称略、委員長を除き五十音順）

〈委員長〉

金井 一頼 青森大学 学長

〈委員〉

東 博暢 株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門プリンシパル
 大前 創希 ドローンファンド 共同代表パートナー
 合田 ジョージ 株式会社ゼロワンブースター 共同代表 取締役
 牧野 成将 株式会社Darma Tech Labs 代表取締役
 水島 淳 西村あさひ法律事務所 パートナー 弁護士

〈オブザーバー〉

柴田 昌弘 特許庁 総務部 企画調査課 知的財産活用企画調整官
 菊地 陽一 特許庁 総務部 企画調査課 企画班 課長補佐
 貝沼 憲司 特許庁 総務部 企画調査課 ベンチャー支援班 課長補佐
 吉野 涼 特許庁 総務部 企画調査課 ベンチャー支援班 係長
 寺澤 萌 特許庁 総務部 企画調査課 研究係・ベンチャー支援係
 網谷 拓 特許庁 総務部 企画調査課 法制専門官
 櫻井 昭喜 特許庁 総務部 企画調査課 工業所有権調査員
 関口 嗣畝子 特許庁 総務部 企画調査課 工業所有権調査員
 青鹿 喜芳 特許庁 秘書課 弁理士室 弁理士制度企画班長
 森川 暢也 特許庁 秘書課 弁理士室 弁理士制度企画係長
 船越 亮 特許庁 審判部 15部門（医療機器） 審判官
 松本 要 特許庁 審判部 18部門（素材加工、金属電気化学） 審判官
 稲畑 航平 経済産業省産業技術環境局大学連携推進室 室長補佐
 野澤 志保 経済産業省産業技術環境局技術振興・大学連携推進課 専門職
 岩田 淳 INPIT知財戦略部 営業秘密管理担当 部長代理
 藤江 大望 INPIT知財活用支援センター 企画調査担当 センター長補佐

ベンチャーの知財コミュニティ構築に関する調査研究委員会

ワーキンググループ名簿

（敬称略、WG長を除き五十音順）

〔分野別ワーキンググループ（画像データビジネスWG）〕

〈WG長〉

河野 英仁 河野特許事務所

〈メンバー〉

宮下 直己 株式会社アクセルスペース

元垣内 広毅 株式会社スマートドライブ

吉田 真理子 本郷飛行機株式会社

〈オブザーバー〉

貝沼 憲司 特許庁 総務部 企画調査課 ベンチャー支援班 課長補佐

吉野 涼 特許庁 総務部 企画調査課 ベンチャー支援班 係長

寺澤 萌 特許庁 総務部 企画調査課 研究係・ベンチャー支援係

ベンチャーの知財コミュニティ構築に関する調査研究委員会
ワーキンググループ名簿
（敬称略、WG長を除き五十音順）

〔分野別ワーキンググループ（AR/VR/MRビジネスWG）〕

〈WG長〉

小坂 準記 TMI総合法律事務所

〈メンバー〉

西村 洋 株式会社Synamon

武井 勇樹 株式会社Synamon

中村 薫 株式会社ホロラボ

伊藤 武仙 株式会社ホロラボ

奥 健太郎 株式会社カシカ

大谷 佳弘 株式会社ヒナタデザイン

〈オブザーバー〉

貝沼 憲司 特許庁 総務部 企画調査課 ベンチャー支援班 課長補佐

吉野 涼 特許庁 総務部 企画調査課 ベンチャー支援班 係長

寺澤 萌 特許庁 総務部 企画調査課 研究係・ベンチャー支援係

ベンチャーの知財コミュニティ構築に関する調査研究委員会
ワーキンググループ名簿
（敬称略、WG長を除き五十音順）

〔分野別ワーキンググループ（医薬バイオ関連スタートアップの創業期戦略を考えるWG）〕

〈WG長〉

大門 良仁

〈メンバー〉

廣瀬 智一 株式会社NOVENINE、京都大学大学院

宮崎 智之 横浜市立大学医学部

等 泰道 サイアス株式会社

神藤 康弘 HuLA immune株式会社

〈オブザーバー〉

貝沼 憲司 特許庁 総務部 企画調査課 ベンチャー支援班 課長補佐

吉野 涼 特許庁 総務部 企画調査課 ベンチャー支援班 係長

寺澤 萌 特許庁 総務部 企画調査課 研究係・ベンチャー支援係

ベンチャーの知財コミュニティ構築に関する調査研究委員会
ワーキンググループ名簿
（敬称略、WG長を除き五十音順）

〔分野別ワーキンググループ（知財プロボノ/副業WG）〕

〈WG長〉
なし

〈メンバー〉

- 川名 弘志 KDDI株式会社
- 奥 智照 KDDI株式会社
- 有定 裕晶 株式会社メルペイ
- 土屋 光正 富士フイルム株式会社
- 田中 亮 株式会社ビザスク

〈オブザーバー〉

- 貝沼 憲司 特許庁 総務部 企画調査課 ベンチャー支援班 課長補佐
- 吉野 涼 特許庁 総務部 企画調査課 ベンチャー支援班 係長
- 寺澤 萌 特許庁 総務部 企画調査課 研究係・ベンチャー支援係

禁無断転載

平成30年度 知的財産国際権利化戦略推進事業
(ベンチャーの知財コミュニティ構築に関する調査)
調査研究報告書

平成31年3月

委託先 株式会社角川アスキー総合研究所

〒102-0076 東京都文京区西片1-17-8 KSビル2F

電話 03-5840-7800

FAX 03-5840-7812

URL <https://www.lab-kadokawa.com/>